「フン・センーソク・アン」主導のカンボジア新内閣

名実ともに「最高実力者」となったフン・セン新首相――カンボジアで昨年11月末日に発足した新連立政権では、変則的だった二人首相制の前政権と違い、フン・セン前第二首相が単独の首相に就任した。その陰には参謀役として組閣作業を補佐したソク・アン官房長官の存在があった。この人民党の「首相ー官房長官」コンビは、同党と「宿敵」民族統一戦線の連立与党をどのように協調に導き、政権を維持していくのか。その成否は両氏が従来の強権的手法ではなく、民主的政治を目指せるかどうかに多くがかかっている。

人民党が実権掌握

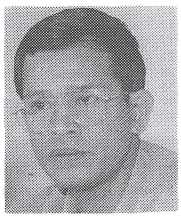
「今のカンボジアを率いることができるのはフン・セン氏しかいない」。これはプノンペンの外交筋の多くが、7月の総選挙直後から予測したことだった。総選挙の結果は、カンボジア人民党(チア・シム党首)64議席、民族統一戦線(フンシンペック：以下「戦線」、ラナリット党首)43議席、サム・リャンシー党(サム・リャンシー党首)15議席。人民党は第一党になったが憲法が規定する内閣樹立に必用な議員定数の2/3に届かず、連立政権は必至だった。

結局、フン・セン氏が首相、ラナリット氏が国会議長に就任するなどの条件で人民党と「戦線」の連立合意が成立。サム・リャンシー党は国会に議席を持つ唯一の野党として活動することになった。また、上院を創設し、チア・シム前国会議長を国王不在時の国家元首代行の権限を付けた上院議長とした。人民党の「ボス」の顔を立て、同党内の反フン・セン派を刺激しないための措置である。これら一連の政治的妥協が成立するまで、各党間の対立や牽制で約4カ月を空費したことは、この間連日報道された通りだ。

そうした紆余曲折を経て成立した新連立内閣だが、その構成や顔触れを見てみよう。

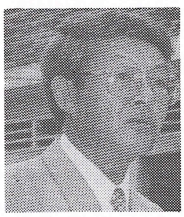
【概観】大臣はフン・セン首相の下に、各省大臣を兼任する2人の副首相と8人の国務相(注1)を含めて38ポスト・28人。治安の要である内務、国防両省は前政権同様、両党による共同大臣制で、(内閣官房を含まない)その他の省の大臣ポストは両党に11ずつ均等に分配している。

しかし、人民党は経済再建や国際社会との接触のカギを握る財政・経済相、商業相、外相、工鉱業・エネルギー相、郵便・電気通信相などの有力ポストを押さえ、それに対して「戦線」は司法、社会、教育・文化に関連する困難だが、「利権のうま味」がないポストが割り当てられた。しかも、人民党の大臣は8割が閣僚経験者なのに対して、「戦線」は6人が初入閣。総数54人の次官(長官、注2)も両党でちょうど半数ずつ出しているが、「戦線」は27人中の23人が新人だ。フン・セン氏が念願の「一人首相」に就任し、こうした閣僚構成を持つ新政権は、人民党が実権をほぼ掌握したものであることは明らかだ。



フン・セン首相

サル・ケン
副首相兼内相



トル・ロア副首相兼
教育・青年・スポーツ相

陰の実力者：ソク・アン官房長官

【官房長官】新連立内閣でフン・セン首相に次ぐ実力者として注目すべきは、前政権から留任し、今回は国務相兼任に昇格したソク・アン内閣官房長官(プロフィール参照：以下《p》)だろう。因みに、このポストは英語では Minister, Council of Ministers で、報道によっては「首相府相」、「閣僚評議会担当相」などの邦訳が当てられている。しかし、役職の性格からも日本外務省南東アジア第一課が使っている「官房長官」という邦訳が妥当だろう。

ソク・アン官房長官は海外の報道で名前が出ることはあまりない。80年代にはカンボジア和平交渉で旧プノンペン政府のフン・セン首相兼外相(当時)補佐を務めた外交テク

ノクラートで、知る人ぞ知るフン・セン氏の右腕的存在だ。前政権では「戦線」の若手実力者ウェン・セレイウット氏(現観光相、《p》)も観光相兼任で同ポストにあったが、新政権ではソク・アン氏が単独の官房長官に就任した。フン・セン首相は政権の「参謀長」としてソク・アン官房長官の役割を強化したい意向のようだ。

実際、人民党関係者によると、今回の組閣作業はほとんど「フン・センーソク・アン」ラインで進められ、人民党の大臣・次官の6割はソク・アン氏が直接「指名」したという。新政権の政局運営は「フン・センーソク・アン」主導で進められるといってよいだろう。

【副首相】前政権同様、人民党と「戦線」から1人ずつ副首相を出している。サル・ケン副首相兼内相(人民党)は留任。前政権で教育・青年・スポーツ相だったトル・ロア氏が「戦線」側の副首相(前職も兼任)に昇格した。

サル・ケン氏はチア・シム人民党党首の義弟で、同党中央委組織委員会議長。同党内で「フン・セン派」に対抗する「チア・シムーサル・ケン派」の領袖でもある。昨年4月に「党内クーデター」を謀り、フン・セン氏を党公認の首相候補からはずそうとして失敗した経緯がある。そのため、(一部には駐仏大使に転出との噂もあり)新政権でのサル・ケン氏の処遇に注目が集まったが、結局留任となった。同党の内部事情に詳しい筋によると、フン・セン派は同党の国会議員の大半を掌握しているのに対し、党組織の6割は「チア・シムーサル・ケン派」を支持している。さすがのフン・セン首相も独断人事を行えなかったことが、その辺の事情を物語っている。

一方、トル・ロア副首相は「戦線」幹事長。一昨年7月のフン・セン氏による「クーデター」でラナリット第一首相が国外に避難していた期間に、ウン・フォット氏(ラナリット氏の「失脚」後に第一首相に就任)ら「戦線」の有力者がフン・セン陣営に「鞍替え」する状況の中で、トル・ロア氏だけはラナリット氏に忠誠を誓ってきた。副首相への昇格はその功労賞ともいえる。

【外交・経済関連閣僚】概ねフン・セン首相に近い人民党閣僚が占めた。首相の側近は「人民党の各省大臣・次官の9割はフン・セン派」と豪語する。それは旧プノンペン政府時代から行政府のトップにあったフン・セン氏が、各省のテクノクラート閣僚の掌握に成功してきたからだ。キエット・チョン経済・財政相《p》、チャム・プラシット商業相《p》の留任は外交関係者や投資家も基本的には歓迎。外務・国際協力相には新任のホー・ナム・ホン前駐仏大使《p》が任命された。その他、スイ・セム工鉱業・エネルギー相《p》、ソー・クン郵便・電気通信相《p》など前政権から留任や横滑りした閣僚の多くも、「党人」というよりは各分野のテクノクラートだ。

問われるフン・セン首相の政治姿勢

【内相・国防相】国軍・警察の実戦部隊を管轄する両ポストは、前政権同様、連立2党による共同大臣制を採用している。上述した人民党のサル・ケン副首相兼(共同)内相は留任。「戦線」のユー・ホックリー(共同)内相と人民党のティア・バン(共同)国防相も(共に今回は国務相兼任に昇格して)留任した。唯一の新任大臣は(共同)国防相に就任した「戦線」のシソワット・シリラット(殿下)前国連大使だ。

この共同大臣制だが、新政権でも問題含みだ。80年代の旧プノンペン政府時代から中央や地方の官僚機構の大部分は人民党の影響下にある。「『戦線』の大臣が所管しているのは大臣室と公用車だけ」(某省官僚)というのは大げさだとしても、この言葉に象徴される状況は現在でもある。『戦線』の一部には、人民党の支配強化に利用されるだけだとして同党の連立政権への参加を批判する声は根強い。

その点で特筆すべきなのは、人民党員ながら「職業軍人」として国軍各部隊から広く尊敬されているケ・キム・ヤン国軍総参謀長(大将)の存在だ。同参謀長は一昨年7月の「クーデター」事件でも、フン・セン氏の命令に従わず、国軍の主力部隊が「戦線」部隊の攻撃に加わることを阻止した。フン・セン首相はかねてから同参謀長を更迭したい意向といわれるが、チア・シム上院議長、ティア・バン国防相の信任が厚いために果たせないのが実態らしい。

名実ともに「最高実力者」になったフン・セン首相が、その権力に奢り、折にふれ見せてきたこうした強圧的な政治姿勢を今後もちらつかせるのか。あるいは、首相就任時に公約した通り、法治国家の確立や民主主義の進展に真剣に取り組むのか。新政権の行方は、カンボジアを取り巻く経済・社会的環境よりも、このカリスマ的な新首相の政治姿勢如何に多くがかかっているといって過言ではない。

(注1)英語では Senior Minister で、一部文献には「上級相」との訳もあるが、役職の性格からも日本外務省南東アジア第一課が採用している「国務相」の訳が妥当と思われる。人民党、「戦線」の有力者が4人づつ就任。

(注2)英語では Secretary of State。民間航空庁など官庁のトップの場合は「長官」と訳すのが適当だろう。

〔プロフィール〕

カンボジア新政権の注目すべき閣僚

■国務相兼内閣官房長官

Senior Minister and Minister, Council of Ministers

ソク・アン

Sok An, Mr.

新政府の組閣の「根回し役」で、CPP 枠の閣僚人選の多くは同氏が行ったといわれる。旧プノンペン政府では長らく外務官僚を務め、カンボジア和平交渉でフン・セン首相兼外相(当時)を補佐した。官房長官ポストは前政権からの留任だが、新政権では国務相兼任に昇格。フン・セン氏の信頼が厚い CPP の実力者で、現在最も注目すべき閣僚の一人といってよい。

▼データ

【政党】カンボジア人民党(CPP)
【年齢】48歳(1950年4月16日生まれ)
【生地】タケオ州
【学歴】法学士取得
【経歴】
1975年以前：タケオ・カレッジ教員・校長
1982年5月：(プノンペン政府)外相官房長
1985年11月：駐インド大使
1988年7月：副外相(カンボジア和平交渉でフン・セン首相兼外相の補佐を務める)
1992年4月：副内相
1993年6月：国会議員に選出(CPP：タケオ州)
1993年7月：(暫定国民政府)内閣官房長官
1993年11月1日：(共同)内閣官房長官
1998年9月：国会議員に再選(CPP：タケオ州)
1998年11月30日：国務相・内閣官房長官
【歴任】
UNESCO 国家委員会議長
最高国民評議会(SNC)事務局員(プノンペン政府)団長
【党務】
1997年10月：CPP 中央委常任委員(ー現在)
【家族】夫人はベトナム系。子供5人。

■国務相兼経済・財政相

Senior Minister and Minister, Ministry of Economy and Finance

キエット・チョン

Keat Chhon, Mr.

前政権からの留任はプノンペンの外交団も歓迎している。75年に成立した民主カンプチア(ポル・ポト政権)で閣僚待遇のポストにあったが、84年に同派を離脱、その後旧プノンペン政府に転じた。ソルボンヌ大学で学んだエリートだけに、同政府でもフン・セン首相(当時)経済顧問や国家投資委員会議長などの要職を占めた。CPP の古参党員ではなく、同党中央委にも要職をもっていないが、経済テクノクラート的な立場での入閣と見てよい。

▼データ

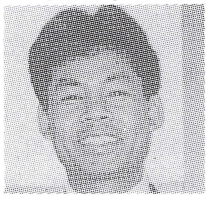
【政党】カンボジア人民党(CPP)
【年齢】64歳(1934年8月11日生まれ)
【生地】クラチエ州チロン郡
【学歴】
パリ Genie Maritime 国立高等学校(工業専攻)
ソルボンヌ大学理学部卒業
Saclay 国立科学・原子力技術学院
Fontenay 原子力研究センター
【経歴】
1965年：コンポンチャム王立大学学長(ー68年)
1967年：共産主義運動に参加
1967年：工業相・商業相(ー69年)
1970年：カンプチア民族統一戦線に参加
王国民族連合政府(在北京)閣僚
1975年：(民主カンプチア)ポル・ポト首相顧問兼通訳(閣僚)
1979年：国連安保理代表(大使)
1981年：内閣官房長官
1982年：国連工業開発機関(UNIDO、ウィーン)チーフ・テクニカル・アドバイザーのち、国連開発計画(UNDP)コンサルタント
1984年4月：ポル・ポト派から離脱
1990年：カンボジア人民革命党(KPRP)に入党
1992年：フン・セン首相経済顧問
1993年1月：国家投資委員会議長
1993年6月：国会議員に選出(CPP：コンポンチャム州)
1993年7月：(カンボジア暫定国民政府)副首相
1993年11月1日：国務相(復興・開発担当)
カンボジア開発評議会(CDC)副議長
1994年10月20日：経済・財政相
1998年9月：国会議員に再選(CPP：プノンペン)
1998年11月30日：国務相兼経済・財政相
【家族】子供2人
【横顔】
・1986年にフランス国籍を取得。

■観光相

Minister, Ministry of Tourism

ウェン・セレイウット

Veng Sereyvuth, Mr.



カンボジア和平交渉時代、民族統一戦線(Fun)バンコク事務局のスタッフとして NGO 関係者などには良く知られた活動家。フン・セン第二首相(当時)の暗殺を計画したとの容疑で、シリウッド殿下(元副首相兼外相)が95年末に「失脚」する以前は、Fun 内では同殿下のライバル的存在だった。38歳と若いが、ラナリット殿下の「右腕」的存在で、Fun の戦略立案者。前政権からの留任となった観光相のポストは、観光産業がカンボジアの重要な開発部門だけに要職といえる。

▼データ

【政党】民族統一戦線(Fun)
【年齢】38歳(1960年5月31日生まれ)
【生地】プレイウェン州
【人種】クメール族
【学歴】ニュージーランドの大学から政治学の学位取得
【経歴】
1975年：ポル・ポト政権下で生き延びる
1979年：ニュージーランドに定住
1988年：Fun バンコク事務局スタッフ(開発・外務担当)
1989年：ラナリット殿下(現国会議長)秘書官
1991年末：プノンペン入り(帰国)
1992年：カンボジア最高国民評議会(SNC)事務局員
1993年6月：国会議員に選出(Fun：プレイウェン州)
1993年11月1日：(共同)内閣官房長官兼観光相
1998年9月：国会議員に再選(Fun：プレイウェン州)
1998年11月30日：観光相
【家族】独身
【横顔】リベラルでオープンな人柄だが、多少野心家で短気な側面も。

■国務相兼外務・国際協力相

Senior Minister and Minister, Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation
ホー・ナム・ホン
Hor Nam Hong, Mr.

旧プノンペン政府の副外相、外相としてカンボジア和平交渉当時は国際社会で知名度が高かったが、93年成立の前政権下では駐仏大使としてプノンペン政界からは姿を消した形だった。外交政策は新政権の連立2党からの政治的中立性が要求されるだけに、民族統一戦線(Fun)にも受け入れられる同氏が外相に選ばれたと見られる。いわば、CPP 枠での外交テクノクラートとしての入閣。

▼データ
【政党】カンボジア人民党(CPP)
【年齢】63歳(1935年生まれ)
【生地】プノンペン
【学歴】王立行政学校卒
パリ大学で国際関係学の学位取得
【経歴】
1967年：駐仏大使館一等書記官
1970年：カンプチア民族統一戦線に参加
1973年：王国民族連合政府駐キューバ大使
1975年：プノンペンに召還される
1977年：ブーン・トゥラベク収容所(B30)に拘留される
1979年：カンプチア人民共和国樹立に参画(非カンプチア人民革命党員)
1981年：国会議員(コンポン・チャム州代表、－93年)
(プノンペン政府)副外相
1982年：駐ソ大使
1988年：(プノンペン政府)外交・司法担当首相補佐(閣僚)
副外相
1990年9月：最高国民評議会(SNC)メンバー(－93年)
1990年11月：外相
1993年7月：(カンボジア暫定国民政府)国務相
1994年9月：駐仏大使(兼 EU 大使)
1998年11月30日：国務相兼外務・国際協力相

■工鉱業・エネルギー相

Minister, Ministry of Industry, Mines and Energy
スイ・セム
Suy Sem, Mr.

ポル・ポト政権下を生き延びた元来は労働問題の専門家。今回、工鉱業・エネルギー相に抜擢された。

▼データ
【政党】カンボジア人民党(CPP)
【年齢】51歳(1947年生まれ)
【生地】プルサット州バカン郡
【学歴】経済学士取得
【経歴】1970年：労働省勤務
1975年：(ポル・ポト政権下を)生き延びる(－79年)
1991年：副計画相
1993年1月：労働・社会福祉相
1993年6月：国会議員に選出(CPP：プルサット州)
1993年7月：(カンボジア暫定国民政府)労働・社会福祉相
1993年11月1日：福祉・労働・退役軍人庁長官
1998年9月：国会議員に再選(CPP：プルサット州)
1998年11月30日：工鉱業・エネルギー相
【党務】
1992年：CPP 中央委員

■郵便・電気通信相

Minister, Ministry of Post and Telecommunication
ソー・クン
So Khun, Mr.

前政権から留任。日本の電気通信関連企業の関係者には良く知られている。元来は農業経済の専門家。

▼データ
【政党】カンボジア人民党(CPP)
【年齢】49歳(1949年生まれ)
【生地】カンダル州
【学歴】農業経済学課程修了
【経歴】1970年前：灌漑局職員
1970年：農業省局長
1975年：(ポル・ポト政権下で)収容所に入れられる
1981年：(プノンペン政府)水利局長
1986年：副農業相(－92年)
メコン国家委員会委員
1992年4月：通信・運輸・郵政相
1993年6月：国会議員に選出(CPP：タケオ州)
1993年7月：(カンボジア暫定国民政府)運輸相
1993年11月1日：郵便・電気通信庁長官
1994年10月20日：郵便・電気通信相
1998年9月：国会議員に再選(CPP：タケオ州)
1998年11月30日：郵便・電気通信相に再任

■商業相

Minister, Ministry of Commerce
チャム・プラシット
Cham Prasith, Mr.

ポル・ポト政権時代を生き延びた後、旧プノンペン政府の外務官僚として頭角を現した。CPP の国会議員ではなく、テクノクラートとしての入閣。華人系。

▼データ
【政党】カンボジア人民党(CPP)
【年齢】47歳(1951年5月15日生まれ)
【生地】プノンペン
【人種】華人系(Sino－Khmer)
【学歴】
1973年：プノンペン総合大学卒(経済学・商学)
1980年・1984年：カンボジア外務省外交官養成課程修了
【経歴】
1973年：半官半民の金融機関“Credit Foncier”会計監査官(－75年)
1975年：(ポル・ポト政権下)バッタンバン州に「下放」し労働
1979年：シエム・リアップ州で農業に従事
1980年：外務省通訳官
1981年：外務省広報局副局長
1982年：外相秘書官
1984年：外務省総合政策局長(兼任)
1985年：外務省総合政策局長兼首相秘書官
1987年：官房副長官(経済・財政・外務担当)
1993年7月：(カンボジア暫定国民政府)副経済・財政相
1993年11月1日：経済・財政省次官
1994年10月20日：商業相
1998年11月30日：商業相に再任
【家族】子供4人

■計画相

Minister, Ministry of Planning
チャイ・タン
Chhay Than, Mr.

▼データ
【政党】カンボジア人民党(CPP)
【経歴】
1981年：(プノンペン政府)財政省税務局長
1983年：財政相顧問
1984年：副財政相
1986年：財政相
1993年6月：総選挙で落選(CPP タケオ州候補者順位第4位)
1993年7月：(カンボジア暫定国民政府)副退役軍人相
1993年11月1日：経済・財政省次官補
1998年11月30日：計画相

(アジア政治アナリスト 勝田 悟)